

〈帝国〉時代のコモンとコミュニケーション

The Common and Communication in the age of Empire

水嶋 一憲 (MIZUSHIMA Kazunori)

アントニオ・ネグリとマイケル・ハートが、グローバル化する現代世界を新たな視角から捉えるために呈示した〈帝国〉という概念は、今日もさまざまな学問分野に強い影響をあたえている。それと並行して、グローバル化の過程で政治・経済・文化が複雑に絡まり合いながら、ウェブ2.0以降のメディア・ネットワークが世界を覆い尽くしつつある現在、人々が分かち合い、人々を結びつけるコモン（共有・共同のもの、一言でいえば、〈共〉）とコミュニケーションの動態や、両者の連関に大きな関心が寄せられている。本研究は、ネグリとハートが〈帝国〉三部作で展開したコモンをめぐる議論（コモンの生態学）の有する意義と射程を主に社会哲学・社会思想的観点から考察するとともに、ソーシャル・メディア時代におけるコミュニケーションの働きをメディア文化論の新展開（メディア生態学）をも踏まえた学際的視点から把握することを目的とする。

そのような目的に到達するために平成 27 年（2015 年）度には、以下のような研究成果をあげた。

【図書（共著）3冊】

- ① 水嶋一憲 「ネットワーク社会の政治経済学：研究の方法4」、「ソーシャル・メディアによるランキング機能」、伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ 第2版』、ミネルヴァ書房、52-55 頁、74-75 頁（総頁 232 頁）
- ② 水嶋一憲 「情報資本主義」、西垣通・伊藤守編著『よくわかる社会情報学』、ミネルヴァ書房、150-151 頁（総頁 217 頁）
- ③ 水嶋一憲 「〈帝国〉時代の戦争とコミュニケーション」、三元社編集部編『竹村民郎著作集完結記念論集』、三元社、183-186 頁（総頁 247 頁）

【論文（単著）1本】

- ① 水嶋一憲 「加速と隷属：機械状資本論ノート」、『現代思想』第 43 巻第 10 号、青土社、172-185 頁

【学会における招待報告（単独）1回】

- ① 水嶋一憲 「制御社会における個性と集団性をめぐって：ポストオペライズモとポスト構造主義の交点への一視角」、日仏哲学会・春季大会のシンポジウム「フランス思想におけるイタリア」における招待報告、京都大学文学部、2016 年 3 月 19 日

併せて、平成 28 年 2 月 2 日より 2 月 11 日までドイツ・ベルリン市に滞在し、「世界文化の家」で開催されていた Transmediale/festival 2016 に参加し、世界各地から集まった気鋭のメディア研究者たちと対話を繰り返しながら、「〈帝国〉時代のコモンとコミュニケーション」をテーマとする本研究の成果を拡大・深化させることに取り組んだ。これらの作業と成果を踏まえた上で、本研究は最終年度に当たる 2016 年度も目的の達成に向けてさらに多面的な探究を推し進めてゆく予定である。